

～かなみっ子のすこやかな成長、質の高い乳幼児教育と保育を目指して～



つながる

函南町幼児教育センターだより15号



令和7年11月発行

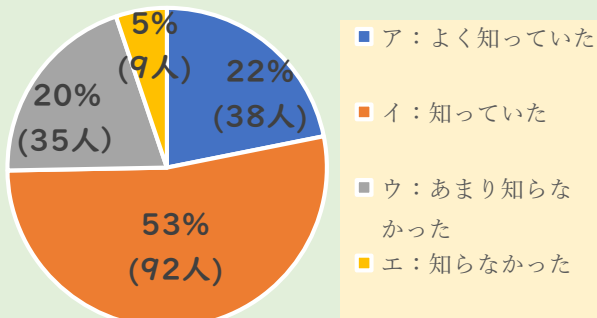
連絡先 学校教育課内
幼児教育センター 979-8121

保護者アンケート(小学校1年生の保護者)

小学校1年生の保護者を対象にアンケート「ゆるやかなスタート」「お子さんの小学校生活について」などを実施し、約7割の方から回答がありました。子どもや保護者が学校生活をどうとらえているのか参考になりますので、先生方もぜひアンケート集計結果(小中学校はアンケートの結果を全職員に配布してあります)を見てください。

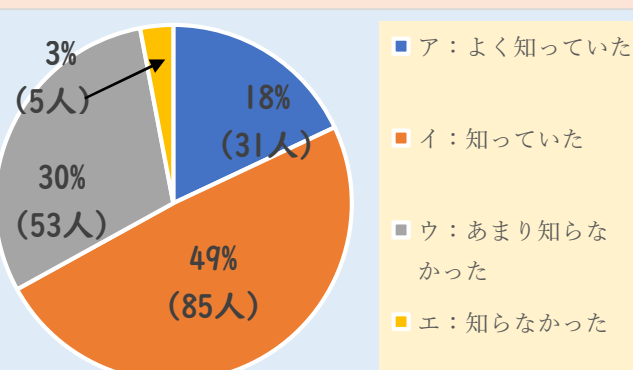
今年度は「なかよしタイム」「のびのびタイム」「ぐんぐんタイム」を各小学校が導入し、ゆるやかなスタートに努めました。また、桑村小学校では、低学年(1～3年生)でチーム担任制を実施し、多くの職員で1年生を見ていく取組をしました。これらの取組が保護者にどのように受け取られているか、今回のアンケート結果に表れています。

園と小学校の連携について



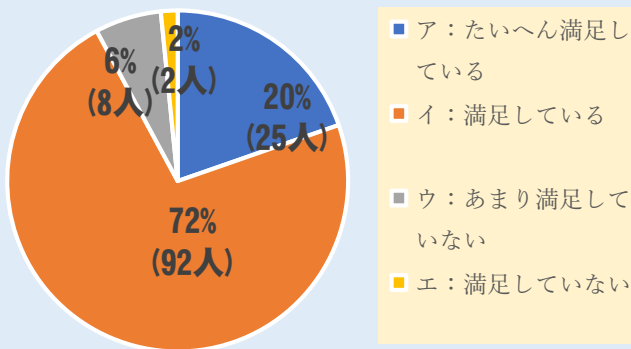
入学説明会や、入学後のおたよりなどを通して各学校が保護者へ周知した結果、75%の保護者が、園と小学校の連携についてを知っていました。町教研接続委員会が集計した、園と学校の交流のまとめを見ると、コロナ明けから少しずつ園と学校の交流が再開され始めていることがうかがえます。子ども同士の交流は盛んになってきましたが、職員の交流にはまだ課題があるようです。

「ゆるやかなスタート」について



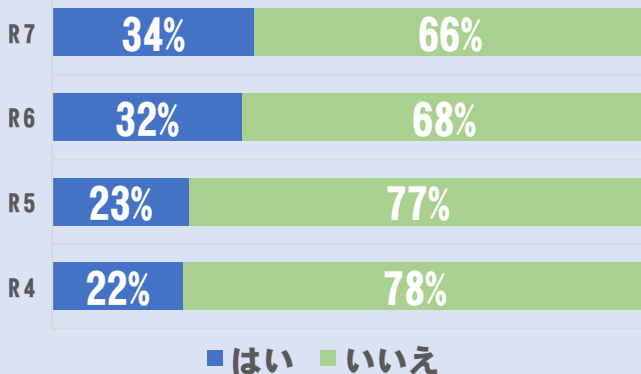
今年度の1年生のおたよりの中の予定表には、「なかよしタイム」「のびのびタイム」「ぐんぐんタイム」の設定がされていました。これは、『遊びは学び』の園生活から、『教科による学び』への変化に対応できるよう、「ゆるやかなスタート」を位置づけることで、1年生が小学校の生活に慣れるようにするためのものです。各小学校、この3つのタイムを意識した指導をしていました。

ゆるやかなスタートの取組について



ゆるやかなスタートに関しては、約9割の保護者が満足しています。「保育園に戻りたいと泣いていましたが、今は友だちができて学校生活にも慣れてきたようです。」という回答もありました。また、「子どもの話だけだと事実や状況が正確に分からないことがあります。先生方と情報交換させていただけたらと思います。」と、学校との連携を望む声もあります。架け橋プログラムは地域や保護者との連携が大切です。

登校しぶりなどがありましたか



1年生が小学校に入学して約3ヶ月の間に、登校しぶりの傾向を示したと34%の保護者が答えています（実際の不登校数とは異なります）。架け橋プログラムは、

- (1) 子ども理解
- (2) 保育・授業改善
- (3) 登校しぶりの減少

の3つが大きな目的です。理由を確認し改善できる点は今からでも改善していきましょう。

登校しぶりの様子

- 遊んで過ごしていた環境から、勉強する場となり楽しくないと言う。
- 文字が読めなくて嫌な思いをする。（発表などでとても緊張するし、読めなくて泣いてしまう。）
- ゴールデンウィーク明けに行きたくなかったようだ。
- 文字を書くことが苦手。
- 新しい環境（友だち、先生、場所など）に対する漠然とした不安。
- クラスに同じ園からの友だちがいなくて、馴染むまでに時間がかかる。
- 勉強が嫌い。
- 授業で座っているのが嫌。
- 環境の変化についていけなかった不安な気持ち。
- 学習意欲がない、勉強が嫌い
- 仲の良い友だちや家が近い友だちとクラスが離れ行きたがらない。
- 人見知り、場所見知りがあり、環境の変化について行けない。
- 食べるのが遅く、給食の量や時間のことが心配。
- 友だちとのけんか、トラブル。

子どもたちがこうした状況を抱えながらも登校できているのは、保護者が上手に背中を押してくれたり、学校が温かく受けとめてくれたりと、それぞれの立場で子どもたちを支えてくれているおかげです。